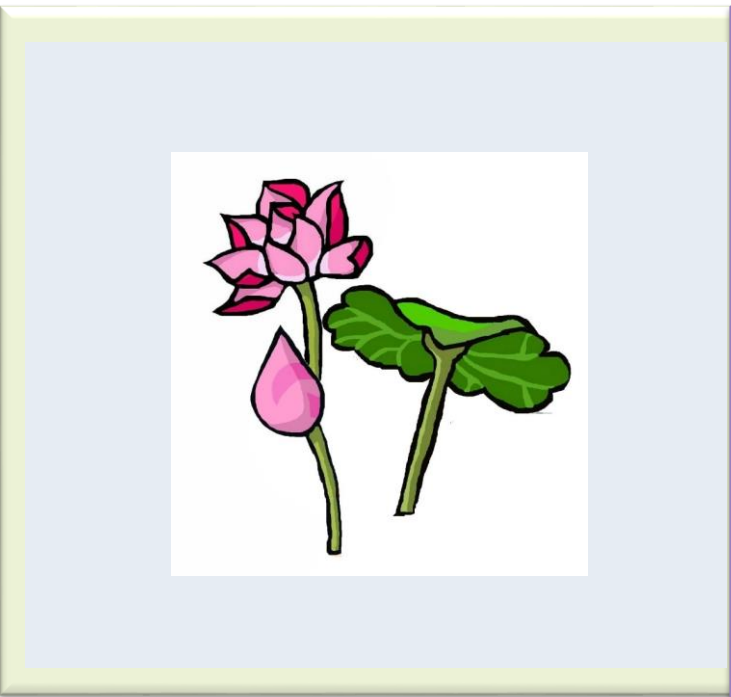


春の法要(共同墓地・ペット墓地合同法要)延期のお知らせ

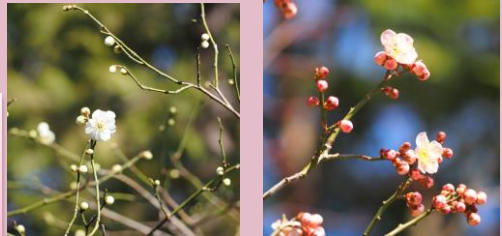
INFORMATION

三月十八日、宮城県に緊急事態宣言が発令されました。期間は四月十一日までとなっております。本来でしたら春の法要を四月の第二日曜日に予定しておりましたが、宣言を受けてひと月延期をし、以下の予定で勤修いたします。どうぞよろしくお願いたします。



日 5月9日(日)
 時 13:00~14:00
 場所 徳泉寺 本堂
 内容 勤行・法話

境内の花々



紅梅・白梅

住職法話『100万回生きた猫』の話

「100万回生きた猫がいました。100万回誰かの飼い猫だった猫は、誰のことも大嫌いでした。しかし、あるとき猫は、誰の猫でもなくのら猫になりました。猫は初めて他の猫を好きになって、自分の命を生きました。そしてもう、生き返りませんでした。」という絵本のお話。この猫のように、私たちは「自分が自分の人生を生きていく主体者となる」ことを仏に願われている身です。あなたを決して見捨てない、という仏様の願いを信じ、仏様からの呼び声を聴きながら「私は私になればいい。私は私であればいい」とこの人生を受けとめ、引き受けて生きていければ、と思います。

前住職法話「悪人正機(あくにんしょうき)」(抜粋)

新聞の投書欄にパーキンソン病を患う妻の文章が載っていました。「何をやっても時間がかかり失敗が多い。超潔癖症の夫に後始末の役目がいつてしまう。いつも小言、大言をいただく。(中略)でも、これだけはわかってほしい。一生懸命やってるんですよ、あなた。」これを読んで別の本で読んだ「患者さんの心を健康な人間のモノサシで測ってはいけないよ。」というあるお医者さんの言葉が思い出されました。私たちは自分が傷つけられたことは覚えていなくても、自分が傷つけた側であるとはなかなか思えません。このご主人もまさか、奥さんを傷つけているとは思いませんでした。仏の教えに出会ったときそれと気づく。周りを振り返ってよく見て、ああ、私は他の人を傷つけていたな、と気づく。「私は、悪人であった」それを自覚することが「悪人正機」(悪人が助かるべき機根の人)ということなのです。

四月同朋会 中止します

緊急事態宣言の発令を受けて、四月の同朋会は中止します。どうぞご自愛ください。

『徳泉寺報』後記

Instagramをはじめてもなく一年になります。毎日毎日欠かさず更新することで、境内の植物に向き合い、命の営みを肌で感じることができました。地震もCOVID-19も大きな自然の営みの中にあります。私はその中でいただいている命なのだ実感します。

三月同朋会より